

## #3 挑戦

ある若者の熱意が  
日野と東京を  
農でつなぐ

つるがしろうすけ  
敦賀周亮さん（東京都）  
青山学院大学在学時に、日野と東京をつなぐプロジェクト「ぐんぐん・ひのぐん」を立ち上げる。卒業後も仕事をしながら、運営に携わる

ここにしかない“しあわせ”  
それをお互いが届けられれば、  
もっと人も集まるんじゃないかな。

遠く離れた東京から、  
日野の魅力を発信するある若者がいる。  
彼は学生時代訪れた日野で、ある思いを抱く。  
その思いは、卒業した今も日野と東京をつないでいる。  
「離れているからこそ見えてくるものもある」  
挑戦を続ける若者が見た、今の日野に必要なものとは

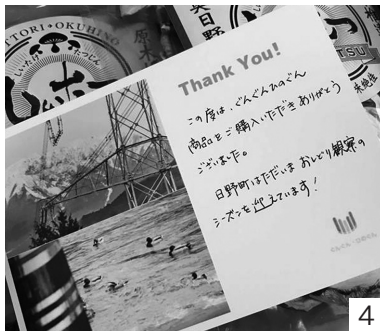
日野郡のオーガニック食品をお届け！  
Product/Service「ぐんぐん・ひのぐん」  
<https://www.gungunhinogun.com/>

日野と東京を農でつなぐプロジェクト  
「ぐんぐん・ひのぐん」

ロゴは敦賀さんらが考案。ロゴはタケノコを表しているという。出身や価値観も違う人たちがそれぞれのカラーで力を合わせ、ぐんぐん成長していこうとの思いが込められている



ぐんぐん・ひのぐん



1) 抜けるような青空の下、地域のおばあちゃんと談笑。東京では味わえないひととき 2) シイタケ生産者の廣瀬俊介さんと情報交換 3) 敦賀さんのプロジェクトを日野町で支える梅林さん。ニホンミツバチのハチミツを使った商品「ひののん」の生産者でもある 4) 「ぐんぐん・ひのぐん」で注文された商品は、直筆のメッセージとともに購入者の元へ届く 5) エゴマを生産し商品に加工している齊藤康史さん。健康食品として人気が高い 6) 東京で開かれた日野町魅力化プロジェクト発表会の様子(右端が敦賀さん)。すぐ実行できるビジネスモデルとして注目度も高かった

敦賀 まだ初めて4カ月ほどですが、リピーターが多いと感じます。良いものには「消費財」としてではなく、思いや価値が加わるなど。また、一緒にプロジェクトを立ち上げた梅林敏彦さん(下黒坂)をはじめ、地域や日野郡の農家の皆さんにはサポートしていただいてとても

助かっています。都会にはない安らぎ。だからこそ、その魅力をもっと発信してほしい。今後はどう展開していきたい? 敦賀 目標は「オーガニックといえば日野、日野といえばオーガニック」と言われるようプロジェクトを大きくしていくことです。そのためには、販路拡大はもちろん、日野郡内の生産者を増やしていかなければなりません。いつか「オーガニック谷」をつくりたいですね。

「農業のどこに魅力を感じた?」 敦賀 実は魅力というより課題に感じました。無農薬なのに「こんなに安い?」って。でも、実際オーガニックを売ろうとしても、そこには構造的な問題があつて、生産者から消費者の手に渡る間にいくつもの過程があるんです。それでは生産者ももうからないし、消費者にも農家の思いが伝わらない。じゃあ、自分が直接つなげてしまおうと考えたんです。プロジェクトを始めて感じたことは?

「オーガニック谷?」 敦賀 日野郡内にオーガニック栽培に適した土地があるんです。その土地で、週末農家や専業農家など野菜を栽培したい人を雇ったり、講習会を開いたり。夢は広がりますね。

「あなたにとって、日野町は?」 敦賀 心安らぐ場所。「関係人口」なんて難しいことを言われていますけど、自分の世界が一つだけだと結構しんどいんです。日野町とつながりを持ってたことで、新たな世界(ハシあわせ)が見つかったと思っています。

「オーガニック谷?」 敦賀 日野郡内にオーガニック栽培に適した土地があるんです。その土地で、週末農家や専業農家など野菜を栽培したい人を雇ったり、講習会を開いたり。夢は広がりますね。

「オーガニック谷?」 敦賀 日野郡内にオーガニック栽培に適した土地があるんです。その土地で、週末農家や専業農家など野菜を栽培したい人を雇ったり、講習会を開いたり。夢は広がりますね。

「オーガニック谷?」 敦賀 日野郡内にオーガニック栽培に適した土地があるんです。その土地で、週末農家や専業農家など野菜を栽培したい人を雇ったり、講習会を開いたり。夢は広がりますね。